

そうぞう

2004.6 No. 9



「そうぞう」とは

人権尊重社会を実現するためには、様々な偏見や差別を受けている人の状況・気持ちを「想像」すること、豊かな人権文化を「創造」する必要があります。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように——そんな思いが込められています。

CONTENTS (もくじ)

「ワタシ」から「ボク」へ ～自分に正直に生きていきたい～ 2

競艇選手 安藤 大将さん

人権随想 性同一性障害とは
—診療を通して見えてきたもの— 4
康 純(大阪医科大学)

用語解説・紹介 5

人物紹介
気楽に、自分らしく、前向きに 6
大熊 ひかりさん

人権相談Q&A

シリーズ/草の根の取り組み
生き生きと暮らせる地域をめざして
～阪神・淡路大震災をきっかけに～ 7
いろいろな笑顔でボランティア(大東市)

シリーズ/教材・カリキュラム紹介
識字教材(絵本) ネパールの流れ星 8
大阪府教育委員会地域教育振興課

募集しています! / 第23回「人権啓発詩・
読書感想文」募集

シリーズ/自尊心と暴力について考える ①
自尊心と栄養理論 9
金 香百合(HEAL・ポリスティック教育実践研究所所長)

募集しています! / 「人権啓発ファシリテーター・
チャレンジ講座」受講者募集

がんばってます! / NPO紹介 10
長居なんでも相談センター

募集しています! / 「大阪府草の根人権活動賞」の
候補者(推薦)募集

お知らせ / 市町村事業 11

利用案内 / 啓発・学習相談のご案内

まちを歩く / 人権のかおりを求めて

【第5回】人権・太鼓ロード 12

人権啓発詩 / けいこちゃんがきた

2004年は
「人権教育のための国連10年」の
最終年です!

「性同一性障害」当事者で競艇選手の安藤大将さん

「ワタシ」から「ボク」へ

～自分に正直に生きていきたい～

まさひろ
競艇選手 安藤大将さん

「性同一性障害」って知っていますか？

2004年7月16日「性同一性障害者の性別の取り扱いの特例に関する法律」(用語解説参照)が施行されます。これにより性同一性障害である人は戸籍の性を変更できるようになります。

性同一性障害とは、生まれながらの自分の性別(からだの性)と心理的な性別(こころの性)が一致しないため、その食い違いに悩み、社会生活などに支障をきたす状態をいいます。

性同一性障害については、テレビドラマで紹介されたりマスコミに取り上げられたりもしていますが、まだまだ、社会の認知度は低い状況です。



安藤 大将(あんど まさひろ)さん
1984年、競艇選手の54期生として登録。2002年3月、「性同一性障害」のため、今後は男子選手として登録すると発表。

そうぞう

2

2004.6*No.9

今回は「性同一性障害」であることを公表し、現在、競艇選手として活躍されている安藤大将さんにご自身のことや周りの方々とのかかわりなどについてお聴きしました。

当事者の声が法制化の大きな要素に

「性同一性障害特例法」ができて、すごくうれしい。今まであまり表に出ることのなかった当事者が声をあげ、訴えてきたことが大きな要素になったと思います。また、ボク自身にとっても色んな意味でタイミングがよかった。

2年前に「性同一性障害」であるということをマスコミの前でカミングアウト(用語解説参照)して、生まれてからずっと使ってきた「安藤千夏」という名前を「安藤大将」と改名して男子選手として登録することを公表したときも、多くの方が関心をもち応援してくれました。そして法制化。さまざまなことが一度に動き出し、後押しされた感じです。

幼いころからの違和感— 両親の思い・そして自分との葛藤—

ボクは、小さいときから自分の性別に対してすごく違和感がありました。見た目は女の子ですから、両親はどうしても女の子として育てたいわけです。でも、ボクはその枠に入りきれない、この場所は「居心地が

悪い、違うな」ということを常に感じていました。

兄弟と遊んでいても女の子のおもちゃに興味がない。男の子のおもちゃが好きだったり、外へ出て木に登ったり…。いわゆる“女の子らしくない”ということで、両親はかなり心配していました。

大きくなるにつれて、トイレの問題とか着る物とかますます違和感が増えてきました。それなのに、両親は一向に“女の子らしく”ならないボクを見て悩み、ことさらに女の子らしい外見や行動をさせたりしました。

両親の気持ちも痛いほどわかるし、悲しい顔も見たくない。でも、女の子として生きていく違和感はなくならない。身の置き所をどこにもっていったらいいのか、幼いころからずっと自分との葛藤が続いていました。

競艇との出会い マイ・ベストジョブ

高校卒業後、進路について思い悩んでいました。そんな時、何気なく買った雑誌の「競艇選手募集」という記事にすごく心を惹かれました。競艇のことは全く知りませんでしたが、「あ!これだ」とピンときて、女性としての平凡な幸せを望む両親の反対を押し切って、この世界に飛び込みました。

実際、競艇は男女が対等で勝負を競い合い、しかも報酬は実力次第、唯一あるのは体重制限という男女差の少ない競技なのです。実力主義のこの仕事

は、夢中になれる時間がたくさんあって、自分の心と体がバラバラなことを少しの間、忘れさせてくれるかけがえのないものでした。

しかし、30歳すぎたころから、体と心の違和感は、ますます深刻なものになっていきました。「女性として生きていくしかないのなら、もっと、女らしくしなくてはいけない」と考える自分と、「そのために化粧をしたり、ブランド物の服を着ることがゆるせない」という自分がいました。二つの気持ちの間で、悶々とした日々を送るようになり、その気持ちを抑えるためにさらにモーターボートに打ち込みました。

心に光が 正直に自分らしく生きたい

そんな時、ふらっと出かけた本屋で一冊の本と出会いました。吉永みち子さんの「性同一性障害－性転換の朝－」という本。ボクはそのタイトルを目にするのも初めてなら、それに対する知識もまったく持ち合わせていなかったのですが、不思議なことにその本だけが、たくさんある本のなかから、ボクの目の前に突然現れたような奇妙な体験でした。

家に帰って一気に読み、ものすごくショックを受けました。「病院で病気として認められている。公的に治療が受けられる」ということが書かれているのを見たとき「光が差した」ような気がして、胸のドキドキがしばらく止まりませんでした。

それまで、テレビや雑誌で性転換した人を見てもボクは、絶対に進んではいけない道だと思い込んでいました。しかし、「公的に認められているのであれば両親も認めてくれるかもしれない…」。かすかな望みが出てきたような気がしました。

ただ、病院に行くまでには、ものすごい葛藤がありました。30数年も黙ってきたわけですから…。でも、「正直に、自分らしく生きたい」という長年押さえつけてきた思いがあふれ出し、もう止まりません。“本当の自分”に突き動かされたボクは、3ヵ月後、病院の診察室の前にいました。

多くの人の支えで、今は幸せに

病院のカウンセリングに通いながら、同じ病気をもつ仲間に出会いました。病院の先生や仲間を得たことで、ボクの気持ちは、自然に前だけを向くようになり、どんな高い壁、ハードルも越えることができるような気がしました。

そして、親から授かった大切な体にメスを入れ、肉体の性別を変えることを両親に打ち明けました。ふたりの衝撃は大きく、母は泣き叫び、父は思いとどまるよう必死に説得にかかりました。実際、両

親とボクの間での考え方の差を縮めるまでには、重苦しい日々が続きました。今では、母は「お前が幸せならばそれでいい」と言ってくれていますが、まだ戸惑っていると思います。

同時に、競艇関係者にも事実を打ち明け、男子選手として競技を続けたいと訴えました。ボクは女性から男性になっても、20年近くの心の支えであった仕事をやめることは考えられませんでした。

前例のないはじめてのケースでしたが、先輩や周りの方々の奔走のおかげで男子選手として再デビューすることができました。

振り返れば、短い間に色々なことがありましたが、今、ボク自身は、とても幸せです。

手術後も競艇選手として登録することを認めてくれた全国モーターボート競争会連合会の役員、選手会のみなさん、また、診察・治療していただいた先生方、同じ病気を持った仲間、そして、最終的にはボクの気持ちを受け止めてくれた両親、多くの方々の支えがあつてのおかげです。

カミングアウトしてからプラス面もありましたが、もちろんマイナス面もありました。批判、好奇の視線、身に覚えのない中傷などです。

でも、自分に正直になるほど強いことはないと思う。だから、同じ病気で悩んでいる人たちには、他人のためでなく自分のために生きてほしい。

そして、これからは、「男」、「女」ではなく、みんな仲良く、人間として認められる社会になってほしいと切実に願っています。そのことで、悩みを抱えている人たちの支えになることができればと考えています。



水上の安藤選手

取材を終えて

長い間自分ひとりで悩み続けた安藤選手、自分に正直になることで、多くの理解者や応援者を得、「ひとりの人間として」前向きに生きていこうとするその姿にさわやかな風を感じました。

性同一性障害とは —診療を通して見えてきたもの—

こう 康 じゅん 純 (大阪医科大学)



「性同一性障害」2つの異なる性のはざままで

性同一性障害について理解するには、まず性とは何なのかを考える必要がある。性には「生物学的な性」と「心理・社会的な性」があり、この2つは異なるものとされている。

「生物学的な性」とは、身体の形状、染色体、ホルモン検査などで示される性別である。一方、「心理・社会的な性」には、自分自身がどちらの性に属していると考えているかという「性自認」、社会における役割を示す「性役割」、性愛の対象を示す「性指向性」が含まれる。性同一性障害は、この「生物学的な性」と「性自認」が異なる状態である。

生物学的にどちらの性に属しているかは性染色体を調べたり、性器を診察したりすることで決定できる。しかし、その人がどちらの性に属しているか医学的に証明することはできない。性同一性障害であるかどうかは、本人がどちらの性に属しているか確信しているかを、時間をかけて慎重に判断することになる。

解明されていない原因

なぜ性同一性障害という状態が存在するのかについては、まだはっきりした原因はわかっていない。しかし母親の胎内での、性別の分化の仕方に原因があるといわれている。胎内での性分化の様子を見て

みると、受精後7週目ごろまでは、性別はまだ未分化で、その後8週目ごろから、性器など身体の性分化が始まる。そして自分自身が男性か女性かを認識する脳の性分化は、身体の性分化より遅れて20週目以降に始まるといわれている。身体と脳の性の分化する時期に差があるため、性同一性障害の人たちは、何らかの原因で脳の性分化が身体の性とは逆の性に進んだと考えられている。

当事者の苦悩

性同一性障害の症状として、自分の身体の性とは反対の性に対して強くひかれ、職場や学校で反対の性として行動し、言葉遣いや身のこなし、しぐさも反対の性のようにふるまうことなどがあげられる。また、身体の性が男性の場合、性器や体毛を強く嫌ったり、女性の場合、乳房のふくらみを隠したりするように、自分の体の性に強い嫌悪感を感じる。

心理的には、性同一性障害の人たちは幼いころから、自分はおかしいのではないかと自身を責め悩み、まわりに打ち明けられない、また、打ち明けても理解してもらえない状態が長く続いていることが多い。自らの性がゆらいでいる上に、いじめなどで社会的に阻害され、人間としての存在にさえも自信が持てず悩んでいる人が多い。

心に体を合わせる治療を

現在の治療は、心に体を合わせようというのが基本的な方針である。日本精神神経学会が定めたガイドラインに沿って、本人の意思により段階的に進むことになる。

精神科医や臨床心理士が精神的な苦痛を和らげ、動揺を抑えるよう支援するとともに、いずれの性で

どのような生活を送るのがふさわしいかを自分で考え、選択してもらう治療の第一段階。そして、精神的支援や望む性で生活していけるかの検討を本人と続けながら、ホルモンによって身体を望む性別に近づける第二段階の治療を行う。それでもなお身体に対する違和感が持続する場合には第三段階として、性器に対する手術（性別再適合手術）を行う。

性同一性障害の診療を通して

未だ日本の社会では、性同一性障害に対する知識や理解が少ないこともあり、患者は、差別や偏見に苦しんでいる。性別にこだわる必要のない場でさえ、男性か女性かと問われることが多くある。

例えば、身分証明としても使われることの多い運転免許証には性別記載欄はない。本人を確認するためには、顔写真と氏名が記載されていれば問題がない場合が多い。しかし、印鑑証明をはじめ多くの書

類の書式には性別の記載を必要としている。

日常生活のさまざまな局面で、男性または女性としての役割が求められ、絶えず自分の性別を意識し、悩み続けている性同一性障害の人たちにとって、必ずしも必要とはいえない性別欄を記入することは時として耐えられない気持ちをいさぐくことがある。自分自身の症状について悩み、社会的な差別や偏見に思い悩んでいるうえに、性別にこだわる日本の社会にも苦しんでいる姿が日々の診療を通して見えてくる。

社会の一人ひとりが、多様な性のあり方を知り、お互いを個人として受け入れることができ、性同一性障害の人たちの苦しく不愉快な思いを受けとめることによって、社会のシステムを修正していくことができれば、性同一性障害の人が今そこに感じている苦痛を少しでも緩和することができるであろう。そのために理解を深める手助けができればと感じている。

用語解説

【「性同一性障害者の性別の取り扱いの特例に関する法律」】

【経緯】

現代では、医療技術の進歩により、ホルモン投与や手術などで、性同一性障害当事者の精神的な苦痛を軽減することが可能となってきました。

しかし、戸籍上の性別が出生時の性別のままなので、社会生活をおくるうえで支障があったり、偏見から様々な差別を受けることもありました。

そのため、「性同一性障害」の当事者団体などが中心となって、裁判所に性別記載の変更を求める訴えが幾度も起こされました。

2000年には、「性同一性障害」に関する国会議員の勉強会が発足、2003年7月10日の衆議院本会議にて全会一致で可決、成立しました。

これにより、専門的な知識を有する医師2人以上によって「性同一性障害」の診断を受けている人は、以下の条件をすべて満たし、家庭裁判所の審判が通れば、戸籍の性を変えられるようになります。

【条件】

①20歳以上

②現在結婚していないこと

③子どもがいない

④生殖腺がないか、生殖機能が不能な状態である

⑤外性器が、移行する性別に近似した外観を持つ

この法律は3年をめぐりに、社会的環境の変化に応じて見直すことになっています。

【カミングアウト】

自分が、社会一般に誤解や偏見を受けている少数派の主義・立場であることを公表することをいいます。

「カミングアウト」するためには、自分を肯定し、自分に自信を持ち、差別や偏見にも立ち向って生きていく決意と周囲の支えが不可欠になります。

単に「秘密の告白」をすることではなく、お互いの違いをしっかりと認識した上で、関係性を作り直し、新しい生き方を作ることなのです。

しかし、「カミングアウト」することによるリスクと自分の内面との微妙なバランスなどを考えた場合、状況によっては、あえて「カミングアウト」しないという選択肢もあります。

人物 紹介

気楽に、 自分らしく、前向きに



おおくま
大熊 ひかりさん

「性同一性障害」であることをカミングアウト（用語解説参照）して、戸籍上は男性でありながら、職場では女性職員として生活を送っている。自分の性に「漠然とした」疑問を持つようになったのは、小学校の高学年から中学生の頃。自分の体に「男性の性器がついている」ことに違和感を持ち始めた。

同時に“淡い思い”も芽生えた。「朝起きたら女性になっているかもしれない…」そんな夢をみた。当時、性転換を行ったタレントの話題が刺激になっていたため、それが“夢物語”ではないということも心の片隅に秘めていた。

高校卒業後、「音楽が好きだった」こともあって、ある団体の音楽隊に就職。男性社会の集団生活になじめず悩み、病んだ。

病院で「性転換症」との診断を受けた。その治療法は「体の性に心を合わせる」というものだった。男として生活できるようにする治療を受けた。「社会的に男性として認知してもらうため、女性と結婚して、子どもをもうけ、生き方としても、“男らしさ”を演じました。」

しかし、無理な生き方は様々なストレスを生み、精神科医に「性同一性障害」の診断を受けた。今度は「心の性に体を合わせる」という治療法と聞いた。

「今までの人生なんだったん?」、「性転換症」の診断、治療を憤った。

現在は、「性同一性障害」の治療に先進的に取り組んでいる病院で、カウンセリングを受けながら、「性転換手術」の日を待っている。

マスコミに登場したことが結果的にカミングアウトになった。

「今は気楽に、正直に、自分らしく、前向きに生きています」。2人の子どもは、「ひかりちゃん」と呼ぶ。

Q & A 人権相談

人権相談に関する
質問と回答をご紹介します。

Q 相談者は未婚女性。2年前から勤務していますが、社長からホテルに誘われたり、胸を触られたことがあり、抗議した直後から呼びすてにされたり、暴言を受けています。働き続けたいのですが、社長に対して暴言の中止とセクシュアル・ハラスメント行為への謝罪も求めていきたいと考えています。

A ホテルへの誘いや胸を触る行為、それに抗議した事による相談者に対する社長の対応はセクシュアル・ハラスメントであ

り、男女雇用機会均等法21条により、事業主にはセクシュアル・ハラスメントに関し雇用管理上の配慮義務があること、また労働契約に付随する義務として事業主には職場の環境を整える義務があることを相談者に説明。これまでの性的な言動や暴言を記録し、これをもとに社長に対し、均等法上の対応及び暴言の中止を求めてはどうかと助言しました。

・大阪府総合労働事務所
大阪市中央区石町2-5-3 エルおおさか南館
TEL06-6946-2600
<http://www.pref.osaka.jp/sogorodo/>

(財)大阪府人権協会 人権相談窓口
月曜～金曜 10:00～17:00
TEL : 06-6562-4040

HUMAN RIGHTS

生き生きと暮らせる地域をめざして

～阪神・淡路大震災がきっかけに～

いろんな笑顔でボランティア(大東市)

「いろんな笑顔でボランティア」が発足して8年目になります。そのきっかけとなったのは9年前の阪神・淡路大震災でした。

日頃の付き合い、地域のつながりによって多くの人の命を救えたこと、そして被災地で懸命になって働くボランティアの姿も私たちの胸をうちました。

いつしか自分たちの中で、自分たちも何かボランティアをしてみたいという思いが強まっていました。そこで、社会福祉協議会にボランティアとはどういうものか、誰にでもできるものかといったことについてお話を伺いに行きました。

●住んでよかったと思える地域に

ボランティアとは「誰でも」「いつでも」できるもので「やさしい思いやり」「ちょっとした気配り」「人を大切にし、お互いを尊重する気持ち」であるということをお話していただき、それは自分たちの思いとぴったり一致していました。

そして、堅苦しく考えず自分たちのやりたいこと、お互いに協力できることから始めていこうということになりました。

みんなが集まった中で、地域の高齢者をはじめ誰もが住みよい地域、住んでよかったと思える地域をめざそうということになり、様々な取り組みがはじまりました。

●様々な行事に参加

地域の諸行事や冠婚葬祭でのお手伝いをはじめ、高齢者に関わっては、日頃の安否確認や話し相手になったりしてきました。



高齢者との交流



七夕まつりのミニコンサート

また、病院に付き添ったり、入院している方へのお見舞いなどもしてきました。

日頃外出する機会の少ない高齢者のために、花見会や食事会、もちつきなども企画・実施してきました。

人権を考える集い連絡会が主催するミニコンサートや七夕まつり、ふれあい広場等のイベントにも高齢者や障害者が参加しやすいような配慮、呼びかけを行ってきました。

そうした取り組みを通じて、連絡会の世話人としても参加させていただくことになりました。

●活動の輪が広がる

「いろんな笑顔でボランティア」の取り組みは、今では地域だけではなく周辺の高齢者や障害者との交流もすすめられてきています。

昨年10月に結成された社会福祉協議会の四条地区福祉委員にボランティアから2名が加わり、小地域のネットワーク活動に取り組んでいます。

高齢者や障害者が住み慣れた地域で生活をおくりたいという気持ち、その気持ちを地域全体で支え合い助け合う活動が小地域ネットワーク活動で、それは、私たちボランティアが8年前から率先して取り組んできたことでもあると自負しています。

今年2月には地域の住宅に入居されたハートフル大東グループホームのみなさんとボランティアで交流会を持たせていただきました。

同じ地域に住む仲間としてお互いを知り合えたこと、いつでも声をかけあえる関係をつくっていただければと思っています。

識字教材〔絵本〕

『ネパールの流れ星』

シリーズ

教材・カリキュラム
紹介

○教材作成のねらい

- 識字学級等における、よみ・かき・ことばの学習に役立つように識字教材（絵本）『ネパールの流れ星』を作成しました。
- 本書は、第27回部落解放文学賞の識字部門の入選作品を絵本化したものです。
- 教材化するにあたり著者の了承を得て「部落解放」2001年489号臨時号をもとに、いくつか表記を変更し、すべての漢字にふりがなをつけました。



○教材の内容

- 日本にいられた外国の非識字の方が、日本語を学ぶというストーリーを教材化したものです。
- 一生懸命に学ぶ姿は実にさわやかです。文章も平易です。さらに、イラストも美しいです。おそらく、イラストを見るだけでも、字を読みたい。書かれた内容を分きたい。と思うようになる教材です。
- 識字学級だけでなく、日本語読み書き教室などでも活用できる教材（絵本）です。

[お問合せ] ●本教材が必要な場合は、
 ・大阪府教育委員会地域教育振興課 TEL06-6941-0351(内線3464)
 ・識字・日本語センター TEL06-6561-9988

そらぞら

8

2004.6*No.9



第23回「人権啓発詩・読書感想文」募集

人権問題を“自らの課題”として考えていただく契機とするため詩と読書感想文を募集します。あなたの思いや気持ちを作品にしてみませんか。ご応募をお待ちしています。



昨年度の表彰式の様子（「ノッポさん」こと高見映さんといっしょに）
 【とき 2004年2月14日（土） ところ 府立上方演芸資料館】

- 募集対象** 府内の小・中学（部）生
- テーマ等** 人権の尊さやお互いの人権を守ること、差別のない明るい社会を築くことの大切さ、平和の尊さを訴えることなど。
- 募集期間** 9月30日（木）まで
- 問 合 せ** （財）大阪府人権協会人権啓発部
TEL 06-6568-2983

自尊感情と栄養理論

金 香百合 (HEAL・ホリスティック教育実践研究所所長)

あなたは自分のことが好きですか？自分を大切にしていますか。このように自分について肯定的に感じる気持ちを自己肯定感情、自尊感情、セルフエスティームなどと呼びます。ここでは一番短い自尊感情という言葉で紹介していきます。自尊感情は人権教育の中で最近、とみに知られるようになった言葉です。

私の解釈でいうとこれは自分だけを大事にする自己中心感情と区別する必要があります。人権教育でいう自尊感情とは人とのつながり感の中で、自分と他者を両方とも尊重する自他尊重の感情です。この自尊感情が高い時の傾向は次のようなものです。①私OK、あなたOK、の対等で平等な人間関係をつくる②人を支配・独占せず、人間への基本的信頼感をもつ③前向きで問題に直面してもプラス思考で問題解決的に取り組む④オープンマインドで好奇心旺盛⑤変化に強く、変化を信じ、変化をつくりだす⑥違いを受容し、楽しみ、違いから学ぼうとする⑦偏見や差別が少なく、自分の頭で合理的に考える⑧ジェンダー（男らしさ・女らしさ）への偏見が少なく、両性具有的である（強さもやさしさも併せ持つ）⑨あるがままの自他を受容し、楽しみながら変化成長していく。そう、お気づきのように、自尊感情が高まるとこのように豊かな人権感覚がはぐくまれやすくなるのです。

では、この自尊感情を高めるためにはどうすればいいのでしょうか。私が長年の経験からいきついた「自尊感情栄養理論」からいうと、ふたつの

栄養を摂取していることが大切です。それは、からだの栄養とこころの栄養です。

からだの栄養は主に3つ、適切に①食べること②ねむること③動くこと一です。どれも現代人の毎日では大事にされなくなっていますが、本来生きることの基本でもありました。これらがうまくいってないと私たちは大変なことで暴力的になっていきます。

こころの栄養は9つ①安心・安全と感じられる②大切にされている③関心をもたれている④聴いてもらっている⑤認められている⑥ほめられている⑦信頼されている⑧感謝されている⑨あるがままに受容されている一です。こういうものをまわりの人からもらっていると栄養が満ち足りて、自尊感情が高くなります。反対に奪われたり、不足しているときには自尊感情が低くなり、気持ちも荒れて暴力的になっていきやすくなります。

こころの栄養は人からもらう、自分であげる、自然からもらうという三つの方法があります。さて、「人権の文化」をひろめていくためには、まずはひとりひとりのからだの栄養とこころの栄養を高め、結果として私OK、あなたOKの自尊感情を高めることが一番の近道です。

家庭で地域で職場で世界で自尊感情を育む環境（自然環境だけでなく制度やハードも）や人間関係がとりわけ重要です。「人権の文化」を創ることを抽象的ではなく、こんな具体的なことから実践していきませんか。



「人権啓発ファシリテーター・チャレンジ講座」受講者募集

人権をテーマとしたファシリテーターとして、大切な態度や知識、スキル等を理論から実践まで学ぶ講座です。ワークショップの基礎から学び、アクティビティづくりと実践を目標に、チャレンジしてみませんか。

日時 2004年9月～10月までの毎週木曜日19:00～21:00(9/23除く)、11月3日(水)10:00～17:00

会場 ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)ほか

参加要件 ①府内に在住、在勤、在学されている方。
②参加体験型学習の参加経験があり、これからファシリテーターをやってみたいと思っている方、
③全日参加が可能な方

受講料 無料

講師 栗本敦子さん(地球市民教育センター)

問合せ (財)大阪府人権協会人権啓発部
TEL 06-6568-2983
FAX 06-6568-2985





NPOとは「民間非営利組織」のことをいいます。

当事者と同じ目線に立った 相談活動を

長居なんでも相談センター

野宿生活者や障害者など、社会的に弱い立場に置かれ、社会的不利益を被っている人たちと同じ目線に立った相談活動を中心として、2002年6月に設立しました。

人間の尊厳を重視した権利擁護や事業を積極的に行うことで、互いの違いを認め合い、誰もが共に暮らせる人にやさしいまちづくりの実現を目指しています。

「長居公園ぐるっと周辺住みよいまちづくり元気ネットワーク」(現、NPO法人 長居公園元気ネット)が前身で、毎年1回開催していた「住吉元気まつり」を日常的な活動に充実・発展させたいと立ち上げに踏み切りました。

16人の会員のほとんどが障害者。仕事、医療、生活保護など多岐にわたっている相談活動はピアカウンセリング(注)の手法を取っています。当事者同士だと相談がしやすく、具体的なノウハウや、何よりも深い理解が得られるというメリットがあり、成果をあげています。

自立生活プログラムとして、生活保護制度の説明会などを開催したり、社会生活への意欲を高めるような企画も実施しています。田中秀夫代表理事自ら仕事を取ってきては野宿生活者へ斡旋するなど、仕事の提供も行っています。

田中代表理事は「人と人とのコミュニケーションが大事です。例えば、日中活動の場を設けて、そこで様々な作業をしながら、障害者も野宿生活者も子どもたちもふれあえるような、そんな場所づくりができれば…」と展望を語ってくれました。



交流会でのふれあい

(注) ピアは仲間。同胞カウンセリングともいう。1970年代にアメリカの「自立生活センター」の障害者たちが自立を目指す後輩の障害者のために始めた。同じ職業や障害を持っているなど、同じ立場にある仲間同士によって行われるカウンセリング。

特定非営利活動法人 長居なんでも相談センター
TEL 06-6695-0856

そうぞう

10

2004.6*No.9



「大阪府草の根人権活動賞」の候補者(推薦)募集

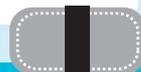
大阪府では、すべての人の人権が尊重される豊かな社会を実現するため、人権教育・啓発や人権擁護の分野において、①自らの意思で、②営利を目的とせず、③不特定多数の市民のために、④地域に根ざして、活動を行っている個人・団体等を表彰しています。

一人ひとりがかげがえのない存在として尊重される差別のない社会を実現するため、あなたのまわりで「頑張っている人や団体」を、ぜひ教えてください。

募集概要

表彰候補者の推薦は下記により募集します。

- 推薦書の提出期間:7月1日(木)~31日(土)消印有効
- 推薦書の提出先:下記のいずれかに提出して下さい
 - *推薦を受けた者(団体)が主に活動している市町村の人権啓発担当課
 - *推薦を受けた者(団体)の住所地がある市町村の人権啓発担当課
 - *推薦を受けた団体の代表者の住所地がある市町村の人権啓発担当課
- 問合せ:大阪府人権室人権教育・啓発グループ
TEL 06-6941-0351(内線2309)
FAX 06-6944-6616
- なお、受賞者は、推薦のあった候補者の中から選考委員会で選考します。
*募集案内は、府内市町村の人権啓発担当窓口に置いています。
自薦については、認めていませんので、ご注意ください。



高槻市関係事業

非核平和をテーマに、資料展とイベントを開催します。

○資料展

- 日時** 8月11日(水)～13日(金)
午前10時～午後6時(13日は午後4時まで)
- 内容** ・沖縄戦をテーマとしたパネル・資料展示
・被爆パネル展示
・戦中食試食コーナー(11日のみ)
・被爆経験者による語り部(13日のみ)
・子ども向け平和アニメ上映 他

場所 高槻市立生涯学習センター 展示ホール

入場料 無料

○イベント

- 日時** 8月12日(木) 午後1時～(予定)
- 内容** 二人芝居「星砂～オキナワ」
新屋英子さん・小林育栄さん
- 場所** 高槻市立生涯学習センター 多目的ホール
- 入場料** 無料
- その他** 手話通訳あり

問合せ 高槻市市民協働部 人権室
TEL 072-674-7458

四條畷市関係事業

青少年非行や薬物依存など、この12年間で関わった子どもたちの数は5000人以上。常に子どもたちに寄り添ってきたからこそ語れる子どもたちの姿を語っていただきます。

- 日時** 7月26日(月) 午後2時～
- 内容** テーマ：夜回り先生
～伝えたい。闇に沈む子どもたちの哀しみを…
講師：水谷 修さん(横浜市・高校教師)

場所 四條畷市市民総合センター市民ホール

入場料 無料

問合せ 四條畷市人権政策推進課
TEL 072-877-2121

大東市関係事業

平和への誘い

- 日時** 8月15日(日) 午後1時～
- 内容** テーマ：平和の映画上映
アニメ映画「からからさんしん」
映画「未定」
- 場所** 大東市立総合文化センター大ホール
- 問合せ** 大東市啓発推進課
TEL 072-870-9061

阪南市関係事業

ヒューマンライツセミナー(後期)

- 日時** 9月2日(木) 午後1時30分～3時30分
- 内容** 子どもの人権
講師：森山 順子さん
(女性と子どものエンパワメント関西事務局長)

- 日時** 9月10日(金) 午後1時30分～3時30分
- 内容** 熱いハートで
講師：川口 泰司さん(新大阪人権協会)
- 場所** 上記のいずれもサラダホール小ホール

サムルノリ講演会

- 日時** 8月7日(土) 午前10時～
8月14日(土) 午前10時～
8月21日(土) 午前10時～
8月28日(土) 午前10時～
- 内容** 韓国の伝統楽器演奏を通じて、異文化理解を深めることを目的とする講習会
- 場所** 桃の木台小学校
- 問合せ** 阪南市人権推進課
TEL 0724-71-5678



啓発・学習相談のご案内

(社) 部落解放・人権研究所では、職場や地域で人権研修や学習活動を推進するために、啓発・学習相談を行っています。相談内容は、研修企画、講師や教材紹介など。

月曜～金曜 午前10:00～午後5:00まで
TEL: 06-6568-1308
FAX: 06-6568-0714
HP: <http://www.blhri.org/>
Eメール: keihatsu@blhri.org

まちを歩く

人権の
かおりを求めて

第5回

大阪市浪速区芦原橋駅周辺 人権・太鼓ロード



芦原橋駅構内には実際の太鼓をはじめ、太鼓をアレンジした案内板が配置されている。駅北口からは太鼓店の看板が目立つ。駅前のバス停では、バスの接近案内音に太鼓の音を取り入れたり、ベンチや屋根が太鼓型になっているなど、まち



牧田 清氏撮影

の玄関口で「太鼓のまち」であることをイメージさせる。

太鼓の産地として300年の歴史を持ち、全国でも有数の皮革集散地である大阪市浪速区。その一角で人権文化発信のまちづくりが進められている。

その中心となっているのが「人権・太鼓ロード」で、「浪速」地域の歴史を正しく伝え、文化に誇りを持ち、人権文化として、発信していこうという試みで、行政や人権関係団体等で構成される「人権・太鼓ロード建設計画策定委員会」が案を作成。

現在、芦原橋駅から日本初の人権博物館である「リバティおおさか」までの新なにわ筋周辺の約500メートルを太鼓にかかわる案内板やモニュメントが設置された10ヵ所のゾーンとして、2004年7月中の完成を目指し整備が進められている。

同策定委員会事務局長の浅居明彦さんは「地域がブレイクするには二つの要素が必要だと考えています。一つは食で、もう一つは芸術文化です。この地域はその二つをかねそなえており、芸術文化で言えば「太鼓」で、食文化で言えば「油かす、さいぼし、こごり」があります。『太鼓ロード』をきっかけに、たくさんの人々が訪れて、豊かな交流や関係づくりが始まれば…」と期待を寄せている。

そうぞう

12

2004.6*No.9

編集 後記



●…本誌「そうぞう」も3年目に突入です。「活動が目されるようになりました。講演などの数多くの依頼が増えました。」…など、取材させていただいたり、ご寄稿いただいた方々の声、「講演会の企画づくりに役立ちました」「フィールドワークの参考になりました」…など、府民のみなさんの声、多くの反響が寄せられています。「人権が尊重される社会づくり」の一助になることを願って創刊された本誌の目的が少しずつ具現化されているような手応えを感じています。

●…多くの府民のみなさんの貴重なご意見を参考に今号から少し誌面構成を変えてみました。ご感想は…。

大阪府や大阪府教育委員会などでは、毎年、人権啓発詩・読書感想文の募集をおこなっています。昨年度は詩の部門562点、読書感想文の部門818点、合計1380点の応募がありました。そのうちの入選作品26点のなかからご紹介いたします。

けいこちゃんがきた

泉南市 小学一年生(当時)
たなかまさき
田中優輝

ペルーから けいこちゃんが
ぼくの がっこうへ きました
ぼくは うれしかったです
よかったです おもいました
けれど
ぼくは スペインごが しゃべれません
けいこちゃんは
にほんごが しゃべれないと きいたので
ちょっと しばいです

2004(平成16)年6月発行

発行/大阪府企画調整部人権室

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目 TEL06-6941-0351 FAX.06-6944-6616 <http://www.pref.osaka.jp/jinken/>

編集/財団法人大阪府人権協会

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12 TEL06-6568-2983 FAX.06-6568-2985 <http://www.jinken-osaka.jp>

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は48円です。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています